

SHIN CLUB 103

(株)ユニホー辰カンパニー 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「Y's ANNEX green court」 撮影：浅川 敏

創立 10 周年のご挨拶

日頃私どもの情報誌「SHIN CLUB」をご愛読いただきありがとうございます。

当社は本年1月に合併し新たなスタートをきりましたが、創業は平成11年10月1日であり、この日を創立記念日としております。

これまで試行錯誤しながらも創立 10 周年を迎える事ができました。これも、ひとえに皆様方のご支援ご指導のたまものと、有り難く心から感謝申し上げます。

巷では毎日のように不動産業・建設業の倒産が相次ぎ大変な時代となって参りました。このような状況はまさに当社が創業した時期に酷似しております。

当社はそのような時期を千載一遇のチャンスと捉え、これまで全社一丸で頑張って参りました。そのかいもあり厳しいながらも比較的不況に巻き込まれずにやってまいりました。

しかし業界を取り巻く環境を考えますと驕ることなく更に気持ちを引き締める必要があり、ここに創立10周年を迎えるに当たり決意も新たに、創業時の原点を思い起こし、愚直に一歩ずつ飛躍し、ご厚情に報いたいと願いたしております。

何とぞ、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成20年10月 1 日

東京都渋谷区渋谷3-8-10
株式会社ユニホー辰カンパニー
執行役社長 森村 和男

Y's ANNEX green court



Y'sシリーズの集大成となる、縦型ワンルームマンション

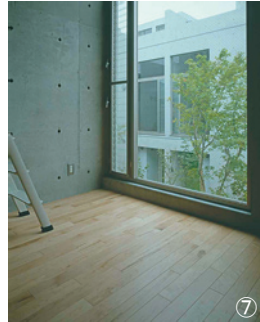
JR 武蔵野線の船橋法典駅から徒歩3分、街道に面した駐車場の奥の敷地に計画されたメゾネット形式のマンションである。建て主はこの地ですでに4棟の集合住宅、店舗、そして自宅の設計をアーキステーションに依頼、この建物は、6棟目となる。今回は、独身者・DINKS向けのワンルームマンションとして、既存のY's court, Y's mart, Y's terrace, Y's garden への借主のステップアップのための住宅として用意された。都心まで40分というアクセスの良さをアピールし、さらなる地域の発展を願う建て主の要望が実現した形だ。

ワンルームというと、普通、玄関を入れて、キッチン・バスルーム、LDKと奥へ続く横型が多い中、今回は縦型のプランを考えた。長屋形式だが、1階に玄関、バスルーム、トイレ、2階にDKを配置し、その3m50という余裕のある天井高を生かしてロフトを設けて寝室スペースとした。フロアごとに機能を持たせることで、雑多になりがちなワンルームをすっきりさせている。さらに、ロフトから戸別の屋上につながり、ワンルームマンションとしては、かなりリッチな仕様になっている。各戸の面積は10坪前後だが、並立する2棟の間に植栽も設け、日当たりもよく、大きな開口部により、開放感のある快適空間を提供している。

(林 康弘氏 談)



所在地：千葉県船橋市
用途：共同住宅
構造：RC造 地上2階 塔屋
設計：林康弘 / アーキステーション
施工担当：窪田、黒沢
竣工：2008年8月
撮影：浅川 敏



①開放的な敷地に並立するコートハウス。ステンレス製の郵便受けがアーティスティックな雰囲気を加える②街道から私道に入った旗竿敷地の奥に建つ③夜景④2棟の間に設けられた植栽。豊かな緑が、Y'sシリーズの特徴⑤中庭の照明と建物内部の照明がモダンな景観を創出している⑥各戸の扉の明るい色が打ち放しのイメージにアーティスティックなアクセントを加える⑦2階から中庭を臨む。植栽が向い側の家から視線をやわらかく遮る

ユニホー 辰カンパニー 第1回ゴルフ大会

協力会社の皆様に改めて感謝

去る9月28日、茨城県の千代田CCにおいて、「辰カンパニー10周年記念ゴルフコンペ」が開かれました。好天に恵まれ、お世話になっている協力会社の皆様や日頃なかなか腕をふるう機会のない社員有志を加えた総勢69名の参加により、和やかな1日となりました。

<執行役社長 森村和男より挨拶>

本日はお忙しい中、当社の創立記念コンペに参加いただきありがとうございます。また日頃は現場で当社の社員が大変お世話になっております。

ところで皆さん、スコアはどうでしたでしょうか？先日、坂田塾の塾長でプロゴルファーの坂田氏の話聞く機会がありました。彼が言うにはゴルフは謙虚に入って傲慢にあがるのだそうです。つまり、先ずはフェアウェイでいい、しかし最後のパットは何が何でも傲慢に入れるのだそうです。そう言えばプロで活躍している選手は皆、憎たらしいほど傲慢ですね。朝青龍、イチロー、上田桃子、皆そうです。

私は性格的に傲慢ではないので今日もスコアは良くありませんでした。今日良かった人は傲慢な人か、仕事をしないでゴルフばかりしている人ではないかと思えます。(悔しいのでそのように言わせてください)結局、仕事もゴルフも同じということでしょうか。

ところで、この会社は10月1日で10年目になります。創業時の計画では10年で売上100億円の予定でした。しかし、現在全然達成できておりません。しかし、当社は愚直に礎を築いてきました。この礎こそ今後の会社発展に繋がることになると確信します。

現在不動産、建設業は最悪の状態です。しかし考えてみれば当社の創業時も同じでしたが果敢に、確実に歩んできた実績があります。

私は今、当社にとっては追い風でチャンス到来だと思っています。来期も今期プラスアルファを計画し、厳しいながらも挑戦しようと思います。しかしそれには皆様のご協力が欠かせません。どうか今まで以上に絶大なご協力をお願いします。本日はありがとうございました。

<成績>

優勝：巴水道工務店 本卦照章氏
準優勝：ヨービ装 前田庸氏
3位：ホーエイ機工 田山裕二氏



参加協力業者の皆様は48社



優勝トロフィを受け取る、巴水道工務店の本卦氏



撮影：アック東京

—先日、この「SHIN CLUB」のメンテナンスの取材の際、「MASUNAGA 1905」店長の永山さんに伺ったのですが、ペイリンモデルと呼ばれる「MP704」の注文が殺到していて、バックオーダー（在庫切れによる注文）がアメリカ 5000 枚、ヨーロッパが 1000 枚ということで、急速増産体制に入られているそうですね。

増永：今は、全体で 10000 枚ぐらいです。大変なサブライズですね(笑)。

—増永眼鏡は 1905 年福井県で創業。創業者増永五左衛門が、農閑期の地場産業育成のため大阪から職人を連れてきて、ドイツのギルド制に似た帳場制と呼ばれる制度を地域に根付かせたのが始まり。特に拠点の鯖江市は、日本のメガネフレーム生産の96%を占めるまでになり、イタリア・中国に並ぶ世界 3 大メガネ生産地となった。さらに増永眼鏡は 1980 年代の中頃、形状記憶合金と異種合金の直接接合を世界で初めて成功させ、壊れにくく、掛け心地の良い「人に優しい」フレームを生み出した。現在は生産拠点として福井の本社工場、マレーシア工場の2ヶ所、販売関係では、福井本社のほかスイス、香港、アメリカ、マレーシアなどに拠点を置く。また東京北青山と名古屋三越ラシック内にショールーム兼アンテナショップ「MASUNAGA 1905」がある。

—増永社長は、1989 年 4 代目社長に就任されたそうですが、当初から世界進出を目指されていたのでしょうか。

増永：そうですね。わが社のものづくりは、設計段階から金型制作、部品加工、組立加工、表面処理、そして仕上検査まで、すべてを自分たちの目の届くところでトータルに行なうものです。それは 200 工程にも及ぶもので、商品としては値段が高つくので、どうしても日本国内の市場だけではユーザーが限られます。そこで世界に市場を求める「3 極プロダクト構想」をかかげ、アジア・アメリカ・ヨーロッパにもマーケットを開拓するという方針を打ち出しました。

—また、デザイナーの川崎和男さんとのコラボレーションで、伝統工芸の中に、デザイン性を重視したものづくりに取り組まれてこられました。

増永：福井県出身の川崎さんは、いろんな伝統工業製品に対しデザインの提案を行って来ました。我々もカンパニーブランドというものを大事にしていきたい思いがありましたね。ほんの 20 年前までは福井はメガネの世界3大産地でありながら、デザイナーとして有名な人は誰もいないという状況でした。「Kazuo Kawasaki」を世界のデザイナーとして育てたい、

11 月 4 日の次期アメリカ大統領の投票日を前に、9 月に入って話題になったのが、共和党の副大統領候補、サラ・ペイリン・アラスカ州知事がかけている日本製の眼鏡。福井県の老舗フレームメーカー、増永眼鏡の Kazuo Kawasaki モデルです。ペイリン候補のビジュアル的な魅力とともに、縁なしの洗練された機能的なフレームに人々の注目が集まりました。2002 年、増永眼鏡の北青山の直営店「MASUNAGA1905」の施工を弊社が手がけさせていただいたご縁で、このたび増永社長にお話を伺うことができました。

Satoru Masunaga

という目標を持ってやってきたわけです。そして、2000 年、世界的なメガネ見本市「パリ・シルモ・ドール」で、日本のメーカーとして、初めて金賞を受賞することになりました。

—Kawasaki モデルは、世界中の名だたる人々が愛用されていると聞いております。

増永：10 年前にも、パウエル国務長官など、有名人が Kawasaki モデルを愛用してくれたのだけど、男の人だと、今ひとつ話題性には欠けますね。今回のサラ・ペイリンは女の子で、しかも政治家でしょう。政策なんかより、むしろメガネの方が話題になって、一般の人に広く知れ渡りました。取材もたくさん来ました。アメリカの3大TV局のほか、日本のTV局もNHK以外全部来ましたね。北青山のお店を作っていて良かったですよ。福井の本社だけではなかなか対応できなかったでしょう。

—デザインを重視し、商品やカンパニーブランドを高める、ということは、無形財産を作っていくということですか。「MASUNAGA 1905」も意匠重視で工事を行った辰さんもいろいろと苦労されたと思うけれども、メガネというのはケースがあるでしょう。あの建物全体が「ケースとして見えるように」というコンセプトで作られたものなのですか。だから、表に看板を出すこともしなかった。最初、「どこかわからなかったよ」というお客さまもいらっしゃいましたが、建物のコンセプトがメガネを入れるパッケージというものでしたから。

—建物はその会社の『顔』です。機能性が若干犠牲になっているかもしれませんが、日本にも会社の『顔』になるようないろいろな建物が、もっとあってもいい。20 年以上前になりますが、テキサスに行ったときに、すごい建物がたくさんあって驚きました。日本もようやくそういう時代になってきました。中国もすごいですよ。北京も上海もよく行くのですが、建物がユニークです。街がどんどん変わってきています。—その中国で去年は「北京 MASUNAGA1905」を出店されました。

増永：もともと上海や香港には進出していますが、今後、「どういう攻め方がいいのかな」と今、考えています。わけもわからず、突っ込んでいくとひどい目にあうからね(笑)。

—本日はどうもありがとうございました。

「建物は、その会社の顔です。ブランドを表現した、もっと面白い建物が建っていい」

増永 悟

1946 年 福井県福井市生まれ。
1969 年 神戸商科大学卒
1989 年 取締役社長に就任
1990 年 福井県眼鏡工業組合理事
1996 年 福井県眼鏡協会 会長 (3 期 6 年)
2002 年 福井商工会議所 常議員 (2 期 6 年)
趣味：ゴルフ、読書

10 月 1-3 日まで東京ビッグサイトで開催された『IOFT2008 第 21 回メガネの国際総合展』(世界中からメガネのフレーム、機器が集まる国際見本市)の会場にて、Kazuo Kawasaki MP740 を手にする増永社長。我々の取材のあとも、アメリカの雑誌の取材が入っていました。



